

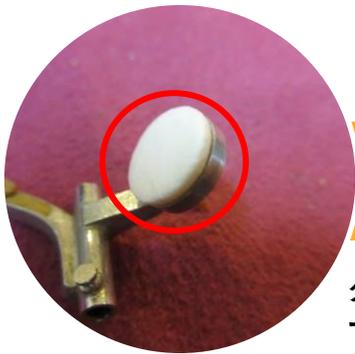
木管楽器の修理方法の違い

管楽器リペア科

2年 工藤 綾華、藤井 康平 1年 苅谷 愛子



クラリネットとフルートのタンポ交換の授業をレポートしました。学校で学んだ技術を、実践で役立てるためのインターン実習もご紹介します！



クラリネットのタンポ交換

タンポとは左側の写真の○で囲まれた白いパーツ(サクスの場合は茶色)のことです。タンポの役割は、楽器の穴を塞いで息が漏れないようにすることです。キィ曲がりやタンポの位置がずれたり、湿度や温度などで劣化したり、タンポに汚れがたまったりと、定期的に交換が必要なパーツです。



① まずは不良タンポを外す所から！

カップを
温めて

タンポを外しやすいように
中の接着剤を溶かして
いきます！

タンポを外し…

いよいよ
交換です

カップの
内側を掃除！

② タンポを外したら新しいタンポをつけます！

天然樹脂の
一つ。冷え
ると固まり
ます。

セラック（接着剤）
を溶かし、タンポに

カップにはめて…

音の立ち上がりや
反応が良くなります

ヘラで調整！



フルートのタンポ交換

フルートにもタンポがついていますが、写真を見ると一目瞭然！**クラリネットとフルートでタンポの見た目が異なります！**そのため、クラリネットとは違う方法でタンポ交換をします。



具体的なクラリネットとの違い

クラリネットではセラックを溶かして調整していたところを、フルートでは調整台紙と呼ばれる紙を入れて調整します。

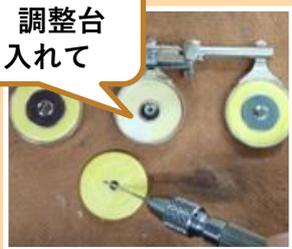


クラリネット



フルート

タンポを外したら、調整台紙を入れて



タンポの隙間を調整台紙で埋めていく



締めるとき、しわがでやすいので注意

ねじを締める！



調整台紙

大きさや厚みの種類が多くある

0.03mmの隙間も埋める！

現場経験を積む インターン実習



小中学校でのインターン実習があり、2年生がグループとなって訪問します。在学中に現場経験が積める貴重な実習で、普段の授業で身につけた技術を、現場で使える技術へと変えていきます。

現場に必要な時間感覚や臨機応変さが磨かれます。



コミュニケーション力や提案力が養われます。

学校法人 中部学園（職業実践専門課程認定校）
中部楽器技術専門学校
CHUBU TECHNICAL ACADEMY OF MUSICAL INSTRUMENTS
〒466-0027 名古屋市昭和区阿由知通3-13-6



0120-856-854

TEL:052-741-6788 **学校案内無料送付中**

URL:www.chubugakki.ac.jp

